

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103762		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり岐阜苑 心の間		
所在地	岐阜市大洞1丁目3-4		
自己評価作成日	令和6年1月24日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103762-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者の生活歴や望む一日の過ごし方を尊重し、無理強いすることなく、利用者が自ら自発的に行動できるような声掛けを行い、メリハリある生活を送っていただいています。特養等の大型施設では、直ぐにおむつになったり車いすになる、一日の大半をスタッフの都合で臥床して過ごすことが常になるような方でも、適時休憩を取りながら過ごしていただきます。また、歩行してトイレに行ったり、杖を使用して歩行したりとその方の残存機能を維持できるよう、取り組んでいます。また、食事は全ての工程をスタッフの手作りに拘り、お誕生日や季節のイベントにはデコレーションをして喜んでいただいています。今後は少しずつ、誕生日やイベントにはご家族との関わりを大切に、家族と入居者の関わりが途絶えてしまうことがないように、取り組んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、去年8月に着任し、新体制構築を手掛けて半年が経過している。初めてのグループホーム管理者抜擢で、当社は日々の業務をこなすのが精いっぱい状況が否めなかったが、昨今では、既存の職員の協力を得て、そつなく運営を軌道に乗せている。
 今後の目標は、コロナ禍でできなくなってしまった外出や、家族との関わりなど、利用者の希望を叶えて行くことにある。コロナに感染することを怖がっていたら何もできない、という気持ちも大きく、「行動制限緩和」の、利用者や家族の希望に寄り添い、まずは面会制限解除、次は家族外出許可と、段階を踏んで進めている。近いうちには、ホームのキッチンで母親自身が家族に手料理をふるまう様な、家族と利用者が心まで疎遠にならない行事を思い描いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットの目に付きやすい位置に貼り出しをしている。またカンファレンス時には、その理念に沿ったケアを心掛けるよう話合っている。	法人理念の「あなたの笑顔が見たいから…」を、外看板や事務所に掲示し、行動規範に落とし込んで職員に周知している。理念帰結ついて、職員会議等で職員と話をする機会を作っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの蔓延により、地域との繋がりが疎遠となる中で、毎日の利用者との散歩や、出退勤時に道で出会った人々に笑顔で元気よく挨拶をするようにしている	日課の散歩時には、出会う地域住民と挨拶を心がけている。地域での認知度も高く、ホーム制服のエプロンを見ると、地域のひと声をかけてくれるお付き合いがある。今後は再開した行事の情報を仕入れ、参加を考えて行く予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為今までのような会議は開催出来ていない。併設施設からの意見や協力を得ながら、利用者のサービスの向上につながるようにしている	コロナ禍から、感染状況を見ると、書面開催の判断が妥当である状況が続いている。メンバーには資料配布の際に意見を聞き取っている。質疑応答を議事録に記載し、報告書として作成している。今後は対面での会議開催を視野に、運営推進会議のあり方を検討する方向である。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は生活福祉課の方に巡回をしていただいていたが今は中止されています。日々の利用者や家族への福祉に関連する相談はさせていただいている	行政担当部署とは、ホームの運営に関する報告や相談を通じて、適切に連携している。地域包括支援センターとは、認知症カフェに利用者と一緒に参加する等、地域包括支援センターからの情報やお誘いには積極的に協力している。地域高齢者の相談や利用者の紹介等もある。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束がなぜいけないのか、私たちはどのような視点で利用者を支援する必要があるのかを、できる限り分かりやすい資料を準備して理解しやすいように工夫している。	身体拘束適正化委員会を設置し、3ヶ月毎に委員会を開催している。内容は、職員会議で周知を図るとともに、参加できない職員には書面で回覧している。身体拘束に対する職員の意識は高く、ホームの方針を理解した、身体拘束排除を推進している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待にあたる事案や対処法などを話し合っている。また、業務に追われ日々の支援の中で傷つけるような言動があったら、スタッフ同士で注意をし合えるような関係性を大切にしている	職員同士で注意しあえる関係性を構築している。3ヶ月毎に、身体拘束とは別枠で委員会を実施し、話し合いを行っている。また、職員に対しては勉強会開催で、知識の共有・周知を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している利用者は居ないのでそのような支援があることを知らないスタッフもいると思うので、勉強会等でそういった内容も取り入れていくのも良いと思う		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族や利用者の希望を時間をかけて聞くようにしている。その上で必要な説明や同意が必要であれば丁寧に伝え、理解・納得につなげている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には折に触れて電話やメールをして気軽に相談や要望を伝えることができるようにしている。スタッフには良いことも悪いことも伝え、貴重なご意見としてあかりの質に繋がるようにしている	利用者自治会が機能し、ホーム運営にかかわる要望や意向が出ることもある。家族からの要望は、日常的な聞き取りに努め、内容は職員周知で対応している。要望が出しやすいように、日頃の様子を細かく情報提供し、意見表出の環境を整備している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議として、管理者とユニットリーダーで今後の運営方法や必要な対応を話し、スタッフ会議でスタッフに意見を求めたり、連絡帳を通して意見を求めています。	全体会議とユニット会議を同日に行い、意見表出の機会を作っている。コロナ禍の面会について、職員間で話し合い「生活の場を家族にも見てもらおう」と、ホーム室内での面会を踏み切った事例がある。他に、随時の個人面談にも対応し、意見を出しやすい環境を作っている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	家族と関わりを持つ中で月次報告を楽しみにしている、あかりさんと良かったという意見をいただくことがある。日々真摯に取り組んでいることが伝わった瞬間であり、スタッフと共有して遣り甲斐につなげている。	職員会議時はもちろんのこと、日常的に意見の吸い上げを図っている。職員からの意見や提案は多い。勤務変更を減らすために、以前より希望休を1日増やして勤務表を作成する等、意見や提案を反映させている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験値の少ないスタッフには、研修や日々の支援を通して力をつけていただき、指導する側もマネジメントの方法を学習できる機会となるので有意義に進めていけるといい	現任職員には1年間の研修計画があり、計画に沿って実施している。介護にかかわる資格取得等には、法人からお祝い金が出る等、職員の資格取得のきっかけややりがいになっている。新人職員はeラーニングで一通り研修をしてから、初日の勤務に入る等を配慮し、不安なく業務につけるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会が定期的開催され、その中で研修や討論会により質を向上させるよう努めています。そこで知り合った近隣の事業所同士、交流を深め話し合っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの考えややり方を価値観として持つてみえる利用者もいる。その価値観を尊重する形で支援をしているし、「娘」「嫁」世代のスタッフが居るので、楽しく家族のような関係が構築されている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフを気遣い遠慮をされる利用者が居るのも事実。言葉かけや行動にそう思わせてしまう節があるという事なので、会議や普段のスタッフ同士のコミュニケーションの中で伝えあえるようにしている	利用者自治会が機能し、利用者代表が司会進行して、利用者全体の意向をまとめることができている。個別には、意向を伝えるようになった利用者の気持ちを汲み取る等、利用者の目線に立った支援がある。聞き取った意向に対して、希望実現の意識が高い。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議や、日々の支援の中で各スタッフが活発に意見をいえる状態になるのが望ましい。皆で話し合った意見や対応を最終的には家族に納得して同意を得るための方法として必要不可欠な作業ととらえている。	基本的には、半年毎の見直しと更新となっている。モニタリングを毎月実施し、利用者の状態変化を記録している。コロナ禍より、家族を含めた担当者会議実施がむづかしく、家族に対しては詳細な報告をもって意向を聞き取る方法で、意向確認を行っている。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間の様子・日中の様子、それぞれにわからない部分があるので、介護日誌やカンファレンスを通して皆が共通の対応ができるようにする。24時間繋がるケアの実践を目指している	現在ホームの書式を変更中とお話であったが、現時点での介護記録は変更がなく、日々の様子のわかりやすい記録となっている。記録が、個別の24時間を把握した、「24時間365日がつながるケア」実現の基となることを目指している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナのせいで家族と過ごす時間を作ることができない。このまま終わってしまうのは切ないので、いつか娘さんやお孫さん、息子さんにお母さんの作った料理をふるまえるような機会が作れると良いとおもう	個別支援への意識が高く、今期はコロナ禍の対応延長でなかなか実現が難しかったが、希望する家族には、心が疎遠にならないように、母親の作る料理をもう一度食べてほしい、という思いがあり、実現に向けて模索中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や情報を入手していないため、各利用者が生活の質を向上させることができるような発掘をしていきたいとおもう		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院のみどり病院により、月に4回の医師の往診があり、体調管理をしている。また、すこやか診療所の看護師により、緊急時には24時間迅速な対応が可能です	ホーム 協力医の月2回の訪問診療を支援している。熱発時等の緊急時には随時の往診もある。医療連携の訪問看護師の週1回の訪問があり、利用者の健康管理を行い、異変時には早期に受診につなげることができる。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の医師とは勿論、他の医療機関の相談員や病棟の看護師に協力を仰ぎ、入院をすれば状況把握に努めている。入院が長期となれば身体的な状態も悪くなるので、退院が決まれば、できるだけ早期の退院を心がけている	ホーム協力医が入院施設を持つ病院であることから、連携は万全である。他の医療機関に入院となった場合も、関係者、家族等と連携を図り、十分な情報共有に努めている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の関係性は個々の家族の在り方によって違うため、終末期における利用者への対応方針は意見が分かれることが多い。遠慮をせず、生活そのものを支援してきた立場として意見が言えることも必要と思います。	入居契約時にホームの方針を説明し、同意を得ている。本人・家族の意向に寄り添い、早期に方針を話し合うとともに、状況変化の都度に話し合いを重ね、納得のできる支援提供となるように努めている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を各ユニットに配布して、いつでも確認ができるようにしている。急変時や事故の際に対応が迅速に行えず、惨事となることもあると思うので、会議や勉強会を通して周知していきたい		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て年2回、避難訓練を行っています。災害時のBCPの内容を話し合い研修を行った。災害時に自治会と繋がり協力をしていただけよう、広報紙を配布があった時に感じの良い挨拶で関係を作っている	年2回の避難訓練を計画し、実施している。利用者参加型で、併設の小規模多機能型事業所と合同で避難訓練を行っている。BCPの作成も進み、今後はBCPに沿った避難訓練実施への思いがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の考え方や生活歴を基本情報や日々の会話の中で知り、伝え方、言葉がけ等その方なりの考え方や性格に合った対応をしています	ホームで実施する勉強会を年間計画として、認知症にかかわる知識を高めている。プライバシーの勉強会も計画化されている。管理者は、認知症理解そのものが、適切な認知症支援につながることをよく理解し、職員指導に当たっている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮をせず、なんでもスタッフに話せる関係性を構築していきたいですが、スタッフにもそれぞれの性格や考え方があるので尊重しながら話し合っていけると良いです		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者それぞれにやりたいことや過ごし方があるのは当然なので、あまりこちらの流れで誘導するのは良くない。ルーティーンではなく、いつも違った過ごし方で過ごして欲しい		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが作る食事の匂いに誘われて「美味しそう。何か手伝うよ」という声が聞かれる。一緒に盛り付けをしたり、料理が好きだった利用者はキッチンと一緒に入り料理を楽しんでいる	元より「食事」はホームのカラーであり、3食手作りにこだわり、メイン料理の他、3品+1汁を作っている。季節料理や行事食に力を入れ、利用者の楽しみを盛り上げている。時には出前を取る楽しみもある。食を絡めた行事の工夫、調理への参加等、一人ひとりの「得意」を引き出す場面である。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細かい方には好まれるものをメニューに取り入れたり、身体状況に合わせてとろみあん、水分にはトロミを付ける等、工夫をしてできるだけ多く摂取できるようにしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラシや口腔ウエットの併用等、その方の状態に応じて道具を検討している。介助が必要な利用者に対しては介助をして口腔内を清潔に保てるよう努力しています	希望する利用者には訪問歯科の支援がある。。希望者は口腔内のチェックを行い、清潔保持の確認している。毎食後職員が歯磨き後のチェックを行い、清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿量や排尿間隔を把握することが支援上必要な利用者には、排泄チェック表を導入し全員が把握し、早めの誘導を行うことでトイレでの排泄ができるようにしている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や人数は両ユニットの買い物等の関係上、ある程度は決めることが必要となるのが現状ですが、日曜日には希望者は入浴していただいています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は各自、好きなように過ごしていただいている。でも夜間の安眠にもつながるよう、できるだけ日中はゲームや体操の声掛けを行い参加していただいている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったら介護日誌に記入するようにしている。薬の効果や副作用等、知っておいたほうが良いことは処方箋で確認できるようファイルに閉じていつでも確認ができるようにしている	現在は、協力医の受信後に、職員が薬局に薬を取りに行き、配薬している。今後、薬局に配薬を依頼(居宅療養管理指導)することも検討している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつまでも元気に動けるようにと、自ら進んで体操や歌を歌う等、努力をされていたり、料理が好きだったからと言われ、スタッフと一緒に食事を作ったりしている。	行事食に力を入れ、最近では、恵方巻きを自分の分は自分で巻いてもらった。日頃動けない人も、参加してくれたり、食欲が進んだりの効果が見られた。利用者の得意なことを活かした役割作りに努め、利用者自治会の司会進行を、利用者が役割として行う事例もある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの蔓延により、外出レクは実施していない。4月の桜見等から始めて、家族と一緒に行くのも良いかも知れない。家族と過ごす時間を提供できるのはとても有意義なことなので、家族と良い思い出を作っていただけると良い。	コロナ禍のホームの対策延長で、行事外出や外食等、ホームとしての取り組みは再開していない。日課の散歩の継続や日光浴等、利用者の気分転換や気晴らしを考えた支援に努めている。認知症カフェ、参加できそうな地域行事等、できることから考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物に関しては家族に相談をして購入依頼をしている。買い物ツアーや、喫茶店・外食に行った時に、自分で欲しいものを選んで、支払うまでの一連の作業は情緒の安定や生活の質の向上にも繋がる。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方から電話が入ることがある。利用者と電話を変わり、話をしてもらい喜んでいただいている。疎遠となられたお孫さんと交流を図り、年賀状を送ってくださり、喜んでおられた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたリビングや居室の温度に注意している。また、季節の壁飾り等、利用者で作成した作品を壁に張ったり飾ったりして、家の様な空間づくりに努力をしている	ほとんどの利用者が、日中の生活時間帯を共有空間の自身の居場所で過ごしている。素晴らしい清潔感で、清掃は環境整備を考える職員が一生懸命行い、清潔保持している。季節感のある飾り付け、あまり施設的にならない作品等の掲示の工夫など、利用者の生活環境を整えている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはくつろげるよう、ソファを置いている。気の合う人と会話を楽しまれている。一人でくつろげるよう場所はリビングの作りからして難しい。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が昔に家で使っていた家具を持ち込まれていたりしている。一緒に作った作品や家族の写真等を飾るのも楽しみながら雰囲気作りができるかもしれない		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が進む導線には手すりが設置しており、トイレにも安全に配慮して手すりが設置されているので、スタッフの介助なしに安全に排泄をすることが可能になっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103762		
法人名	株式会社プラス		
事業所名	グループホームあかり岐阜苑 真の間		
所在地	岐阜市大洞1丁目3-4		
自己評価作成日	令和6年1月24日	評価結果市町村受理日	令和6年3月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170103762-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和6年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各利用者の生活歴や望む一日の過ごし方を尊重し、無理強いすることなく、利用者が自ら自発的に行動できるような声掛けを行い、メリハリある生活を送っていただいています。特養等の大型施設では、直ぐにおむつになったり車いすになる、一日の大半をスタッフの都合で臥床して過ごすことが常になるような方でも、適時休憩を取りながら過ごしていただきます。また、歩行してトイレに行ったり、杖を使用して歩行したりとその方の残存機能を維持できるよう、取り組んでいます。また、食事は全ての工程をスタッフの手作りに拘り、お誕生日や季節のイベントにはデコレーションをして喜んでいただいています。今後は少しずつ、誕生日やイベントにはご家族との関わりを大切にして、家族と入居者の関わりが途絶えてしまうことがないように、取り組んでいきたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所と各ユニットの目に付きやすい位置に貼り出しをしている。またカンファレンス時には、その理念に沿ったケアを心掛けるよう話合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの蔓延により、地域との繋がりが疎遠となる中で、毎日の利用者との散歩や、出退勤時に道で出会った人々に笑顔で元気よく挨拶をするようにしている		
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの為今までのような会議は開催出来ていない。併設施設からの意見や協力を得ながら、利用者のサービスの向上につながるようにしている		
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	以前は生活福祉課の方に巡回をしていただいていたが今は中止されています。日々の利用者や家族への福祉に関連する相談はさせていただいている		
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通して身体拘束がなぜいけないのか、私たちはどのような視点で利用者を支援する必要があるのかを、できる限り分かりやすい資料を準備して理解しやすいように工夫している。		
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して、虐待にあたる事案や対処法などを話し合っている。また、業務に追われ日々の支援の中で傷つけるような言動があったら、スタッフ同士で注意をし合えるような関係性を大切にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用している利用者もおみえになるので、その方の支援について話し合う機会を作っている。いざという時、適切な対応が可能となるよう気軽に相談できるような関係にしていきたい		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族や利用者の希望を時間をかけて聞くようにしている。その上で必要な説明や同意が必要であれば丁寧に伝え、理解・納得につなげている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には折に触れて電話やメールをして気軽に相談や要望を伝えることができるようにしている。スタッフには良いことも悪いことも伝え、貴重なご意見としてあかりの質に繋がるようにしている		
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議として、管理者とユニットリーダーで今後の運営方法や必要な対応を話し合い、スタッフ会議でスタッフに意見を求めたり、連絡帳を通して意見を求めています。		
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	家族と関わりを持つ中で月次報告を楽しみにしている、あかりさんで良かったという意見をいただくことがある。日々真摯に取り組んでいることが伝わった瞬間であり、スタッフと共有して遣り甲斐につなげている。		
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験値の少ないスタッフには、研修や日々の支援を通して力をつけていただき、指導する側もマネジメントの方法を学習できる機会となるので有意義に進めていけるといい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会が定期的開催され、その中で研修や討論会により質を向上させるよう努めています。そこで知り合った近隣の事業所同士、交流を深め話し合っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔ながらの考えややり方を価値観として持ってみえる利用者もいる。その価値観を尊重する形で支援をしているし、「娘」「嫁」世代のスタッフが居るので、楽しく家族のような関係が構築されている		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフを気遣い遠慮をされる利用者が居るのも事実。言葉かけや行動にそう思わせてしまう節があるという事なので、会議や普段のスタッフ同士のコミュニケーションの中で伝えあえるようにしている		
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議や、日々の支援の中で各スタッフが活発に意見をいえる状態になるのが望ましい。皆で話し合った意見や対応を最終的には家族に納得して同意を得るための方法として必要不可欠な作業ととらえている。		
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜間の様子・日中の様子、それぞれにわからない部分があるので、介護日誌やカンファレンスを通して皆が共通の対応ができるようにする。24時間繋がるケアの実践を目指している		
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナのせいで家族と過ごす時間を作ることができない。このまま終わってしまうのは切ない。いつか娘さんやお孫さん、息子さんにお母さんの作った料理をふるまえるような機会が作れると良いとおもう		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や情報を入手していないため、各利用者が生活の質を向上させることができるような発掘をしていきたいとおもう		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携病院のみどり病院により、月に4回の医師の往診があり、体調管理をしている。また、すこやか診療所の看護師により、緊急時には24時間迅速な対応が可能です		
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携病院の医師とは勿論、他の医療機関の相談員や病棟の看護師に協力を仰ぎ、入院をすれば状況把握に努めている。入院が長期となれば身体的な状態も悪くなるので、退院が決まれば、できるだけ早期の退院を心がけている		
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の関係性は個々の家族の在り方によって違うため、終末期における利用者への対応方針は意見が分かれることが多い。遠慮をせず、生活そのものを支援してきた立場として意見が言えることも必要と思います。		
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を各ユニットに配布して、いつでも確認ができるようにしている。急変時や事故の際に対応が迅速に行えず、惨事となることもあると思うので、会議や勉強会を通して周知していきたい		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を経て年2回、避難訓練を行っています。災害時のBCPの内容を話し合い研修を行った。災害時に自治会と繋がり協力をしていただけるよう、広報紙を配布があった時に感じの良い挨拶で関係を作っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の考え方や生活歴を基本情報や日々の会話の中で知り、伝え方、言葉かけ等その方なりの考え方や性格に合った対応をしています		
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮をせず、なんでもスタッフに話せる関係性を構築していきたいですが、スタッフにもそれぞれの性格や考え方があるので尊重しながら話し合っていると良いです		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各利用者それぞれにやりたいことや過ごし方があるのは当然なので、あまりこちらの流れで誘導するのは良くない。ルーティーンではなく、いつも違った過ごし方で過ごして欲しい		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが作る食事の匂いに誘われて「美味しそう。何か手伝うよ」という声が聞かれる。一緒に盛り付けをしたり、料理が好きだった利用者はキッチンと一緒に入り料理を楽しんでいる		
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の細かい方には好まれるものをメニューに取り入れたり、身体状況に合わせてとろみあん、水分にはトロミを付ける等、工夫をしてできるだけ多く摂取できるようにしている		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ブラシや口腔ウェティの併用等、その方の状態に応じて道具を検討している。介助が必要な利用者に対しては介助をして口腔内を清潔に保てるよう努力しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿量や排尿間隔を把握することが支援上必要な利用者には、排泄チェック表を導入し全員が把握し、早めの誘導を行うことでトイレでの排泄ができるようにしている		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や人数は両ユニットの買い物等の関係上、ある程度は決めることが必要となるのが現状ですが、日曜日には希望者は入浴していただいています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本は各自、好きなように過ごしていただいている。でも夜間の安眠にもつながるよう、できるだけ日中はゲームや体操の声掛けを行い参加していただいている		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があったら介護日誌に記入するようにしている。薬の効果や副作用等、知っておいたほうが良いことは処方箋で確認できるようファイルに閉じていつでも確認ができるようにしている		
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	いつまでも元気に動けるようにと、自ら進んで体操や歌を歌う等、努力をされていたり、料理が好きだったからと言われ、スタッフと一緒に食事を作ったりしている。		
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナの蔓延により、外出レクは実施していない。4月の桜見等から始めて、家族と一緒に行くのも良いかも知れない。家族と過ごす時間を提供できるのはとても有意義なことなので、家族と良い思い出を作っていたら良い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物に関しては家族に相談をして購入依頼をしている。買い物ツアーや、喫茶店・外食に行った時に、自分で欲しいものを選んで、支払うまでの一連の作業は情緒の安定や生活の質の向上にも繋がる。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族の方から電話が入ることがある。利用者と電話を交わり、話をしてもらい喜んでいただいている。疎遠となられたお孫さんと交流を図り、年賀状を送ってくださり、喜んでおられた。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じたリビングや居室の温度に注意している。また、季節の壁飾り等、利用者で作成した作品を壁に張ったり飾ったりして、家の様な空間づくりに努力をしている		
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはくつろげるよう、ソファを置いている。気の合う人と会話を楽しんでいる。一人でくつろげるよう場所はリビングの作りから難しい。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分が昔に家で使っていた家具を持ち込まれていたりしている。一緒に作った作品や家族の写真等を飾るのも楽しみながら雰囲気作りができるかもしれない		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が進む導線には手すりが設置しており、トイレにも安全に配慮して手すりが設置されているので、スタッフの介助なしに安全に排泄をすることが可能になっている		